

## 一年間の回顧

東亞の歴史的新事態は着々と現實化し、此處に光輝ある支那事變下第三回目の新春を迎へて次代の中堅指導者たる學徒の身に今一段と時局との關聯に駭目しつゝある時、ともすれば沈滞し勝ちな學内文化團體に常時、ユニークな示唆を與へつゝある我が經濟學會は、今年度如何なる事を爲したるかを回顧するならば、我々は先づ本學で未經驗の學生々活調査を約二年間の時間的經過を待つて然も我々學生自身の努力に依つて、學生課の援助の下に完成させた事は大學としても又經濟學會の歴史に顧みても誇りとすべきである。時あたかも我々の學生々活調査に對應してかの如く、文部省も此の事變下に生活する全國官公私立大學高專各學校の學生々活調査を始め、本學もその一校として調査が施行され、我々學會委員諸君の協力によりて完成された事も記憶さるべき事である。

斯かる大學として歴史的大事業とも言ふべき此の調査は勿論、諸教授諸先輩各位の御參加御盡力にもよるが、特に河西、山下、大河内の各教授には一方ならぬ御指導を頂いたのである。次いで、の事業として、毎年一回開催させる都下六大學經濟學討論會を我が經濟學會が當番校として本學に於て盛大に行つた事も重大な意義ある事の一つとして數へらるゝ事である。言ふ迄もないが此の事變下に送る學生諸君の銑後のこの力強き營みを一堂に會して各位の啓發に盡したのは悦ばしき事である。

又、今まで要望されつゝ實現されなかつた經濟學會先輩諸兄の團體とも言ふべき經人會が創立され、學會と絶えず密接な關係を持し

つゝ、先輩諸兄が御指導下さる事は我々學會員として幸甚此の上無き事である。一學期二學期の兩度に亘つて我々は山下教授を圍む座談會を持ち、教授のユーモラスな座談の中にも種々な示唆を與へられた事は意義深い事であつた。猶三學期に入つて田中教授、小山教授を圍む座談會をそれぞれ持ち、興味ありしかも感銘深い一夕を過した。御多忙中にも拘らず座談會に出席して下さつた諸教授に厚く感謝する次第である。又、恒例の講演會として昨今の學内諸團體の不振を蹴飛ばして、活潑に行はれ、尾崎秀實氏の「支那經濟の變質」伊藤武雄氏の「現地より見たる事變の展望」陣峯義等氏の「戦時下に於ける勞働力問題」東浦庄治氏の「事變と農村」等を行つた我々は以上の外、會報を發行し、懇親會を舉行し、學會と一般學生との密接な協力に依つて華々しくはないがアカデミックな營みが行はれた事は悦ばしき事に言ふべきである。

我々は今後ともこの事變下の學生諸君の要望に答へつゝの使命に沿くべく一層の活躍を期してゐる。

(57頁より續く)

い。然し斯くの如き社會、經濟困亂の間に「農家勞働力」の配給機構は本質的な一歩前進を記録した。即ち勞働者募集制度に對する取締りの全國的統一——勞働者募集取締令、營利職業紹介業取締規則が實現し、勞働力配給機構を本格的に再編成しようといふきざしが實現した。

第五篇は前述の四篇と必ずしも關係なく「農家經濟」と賃勞働關係が述べられてゐる。

此の書は農業問題研究に必讀の書であり、本書に盛られた尠大な資料は得がたい寶玉と名づくべく著者の研究の賜である。

(南效堂 二圓五十錢)